

阿久悠の歌詞における舞台構図からみた建築空間と都市空間

学籍番号 23413573 氏名 宮川 卓也

指導教員 北川 啓介 准教授

はじめに 本研究では、阿久悠の歌詞を研究対象とし、舞台を構成する登場人物と空間要素について図式的に捉え構図を作成し、歌詞の中に表現される空間の広がりをも明らかにする。

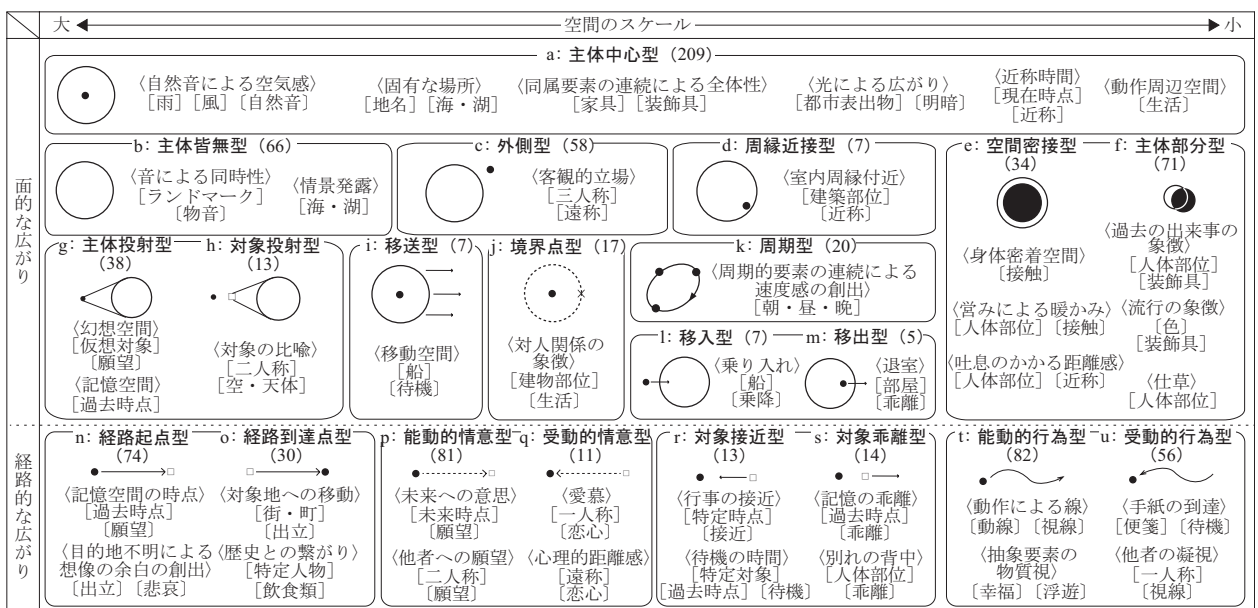
研究対象 阿久悠が作詞した歌詞について批評が加えられている書籍において出現頻度の高い125曲を研究対象とする。

研究方法 歌詞の中における意味内容のまとまりを捉える際に、フレーズの単位に着目し、それを基準に場面を区切る。空間や時間を表す語句を舞台構成要素、登場人物の行動や意志等を表す語句を活動内容と定義し抽出、分類する。次に、舞台を構成する登場人物と空間要素との位置関係について図式化したものを舞台構図と定義し、場面ごとの意味内容から空間の構成を捉えていき類型を導出する。次に、歌詞ごとに舞台構図を組み合わせることのできる全体の図像を展開パターンと定義し導出する。最後に展開パターンごとに個別考察を行い、そこからみられる空間の特性について明らかにする。

舞台構図の類型 形場面ごとに主語となるものを主体とし、主体と空間要素や時間要素との位置関係

を捉えた結果、舞台構図の類型としてa~uの21種を導出することができた(図1)。

舞台構図の類型ごとにみられる空間の性質 それぞれの類型にみられた空間性について個別考察を行い空間の性質を導出する(図1)。a: 主体中心型は、主体の意識の働きかけによってその周辺の空間や時間を表現する。〈同属要素の連続による全体性〉では、[家具]と[装飾具]などの組合せから、具体的な空間要素をひとつひとつ丁寧に列挙していくことで意識の移り変わりを表現すると同時に、そこから空間の広がりを感じさせる。c: 外側型は、物理的な構築物に対して外に主体が存在する状態や、対象の領域に対して主体の認識が外部者であるような情態を表現する。〈客観的立場〉では、[三人称]と[遠称]などの組合せから、主体の意識の中にあられる対象について冷静に捉えている様子を表現する。j: 境界点型は、ある領域に対してその境界上の要素を示すことで、周辺環境との内外関係を表現する。〈対人関係の象徴〉では、[建築部位]と[生活]などの組合せから、境界上の物体の扱いを通じて主体の人間関係について表現する。



\* 図中 ( ) は個数, < > は空間的要素の性質, [ ] は舞台構成要素, [ ] は活動内容, ● は主体, ○ は対象

図1 舞台構図の類型と類型ごとにみられる空間の性質

展開パターン	相関の大きい舞台構図の類型	情緒的表現 ←	→ 即物的表現
<b>A: 空間単一型</b> (23)	a: 主体中心型 b: 主体皆無型 c: 外側型 l: 移入型 m: 移出型	《舞台と情感の呼応》 [広場・公園] [海・湖] [感嘆] [悲哀] [揺動]	《情緒的な天空と主体の対比》 [色] [涙] [空] [全身・裸] [日用品] 《表出物による全体性の創出》 [日用品] [家具] [化粧品] [飲食類] [装飾具]
<b>B: 空間近接型</b> (7)	d: 周縁近接型 e: 空間密接型 f: 主体部分型 j: 境界点型 m: 移出型	《温冷感による空間の対比》 [街・町] [家] [雨] [温冷]	《心情変化のともなう街への出入り》 [街・町] [部屋] [移動] [快樂] [悲哀] 《時差による対比》 [街・町] [店] [居酒屋] [過去時点]
<b>C: 場所移動型</b> (11)	a: 主体中心型 i: 移送型 p: 能動的情意型 n: 経路起点型 o: 経路到達点型	《移り変わる窓の先》 [列車] [窓] [恋心]	《出立における感情発露》 [街・町] [出立] [悲哀] [決意]
<b>D: 空間分散型</b> (21)	a: 主体中心型 b: 主体皆無型 g: 主体放射型 h: 対象放射型	《妄想空間の列挙》 [昆虫] [植物] [海・湖] [楽器]	《記憶空間の列挙》 [居酒屋] [過去時点] [広場・公園] [楽器]
<b>E: 時間単一型</b> (8)	a: 主体中心型 g: 主体放射型 i: 移送型	《擬人表現にともなう 仮想上の空間演出》 [植物] [生物] [昆虫] [街・町] [恋心]	《日常空間の連続による 生活像の提示》 [季節] [風] [家・住宅] [飲食類] [物音] [色]
<b>F: 時間推移型</b> (14)	a: 主体中心型 b: 主体皆無型 k: 周期型	《年齢変化にともなう空間》 [年齢] [部屋] [雪] [恋心] [不幸]	《季節変化にともなう空間》 [季節] [方位] [地名] [雲・曇] [恋心] [空]
<b>G: 経路型</b> (32)	t: 能動的行為型 u: 受動的行為型 p: 能動的情意型 q: 受動的情意型	《連絡手段による つながりの創出》 [電話] [文章類] [恋心]	《人体描写による空間想起》 [人体部位] [衣類] [装飾具] [化粧品] [雨] [接触] [形態] [輝き]

※図中 ( ) は個数, 《 》 は空間特性, [ ] は舞台構成要素, [ ] は活動内容, ● は主体, ○ は対象点  
図 2 展開パターンとパターンごとにみる空間特性

以上のように空間の性質を導出した結果、情緒的な性質を含んだものとして空間を表現する場合と即物的なものとして空間を表現する場合の2つの傾向があり、空間のもつ情動的な性質に幅がみられた。歌詞ごとにみる舞台構図の展開パターン 次に、歌詞ごとに舞台構図の類型を組み合わせていき全体の図像を作成した結果、展開パターンとして7種を導出することができた (図 2)。A:空間単一型では、主要となる空間要素が登場しそれを舞台として登場人物が活動することで場面が展開していく。B:空間近接型では、主要となる空間が登場しそれと近接する空間がつながりをもったものとして表現されることで場面が展開していく。D:空間分散型は、主体の想像や記憶の中の空間を表現し空間を事例として提示することで物理的なつながりをもたない空間が登場し場面が展開していく。**展開パターンからみる空間特性** 次に、それぞれの展開パターンにみられる空間性について個別考察を行い、空間特性を導出する (図 2)。《温度感による空間の対比》では、雨や雪などの気候による冷ややかな都市と内部空間を綿密に描写することで暖かい家が表現され、ふたつの異なる空間が対比されることで両者の性質を強調している。《動と静による空間の対比》では、都市空間の中に現れる賑や

かな要素と室内空間における静的な様子が隣り合わせのものとして描写されることで、ふたつの異なる空間が対比され両者の空間の性質を強調している。《妄想空間の列挙》では、登場人物が心理的狀態に呼応して様々な妄想を繰り広げ、その内容にともなって想像上の空間が分散するかたちで登場することで空間同士の並列関係を創出する。**結論** 空間を主要な舞台として展開する場合は即物的な空間と情緒的な空間の性質の幅を用いて表現するのに対し、時間を主要な舞台として展開する場合は情緒的な空間に偏って表現する。家は、都市の日常における狭い空間として登場することが多く、また恋人同士の親密な生活やその記憶の象徴として登場する。それらは、内部空間を綿密に描写することで愛情や安心感の溢れる暖かい性質をもった空間として登場するとともに、それと対極の冷たい性質をもった空間が近接することで対比されることが多い。街は、祭りや事件といった社会的象のともなう賑やかな性質の空間として登場し、一方で遠方から距離をおくことで情意の対象として登場する。以上より、阿久悠の歌詞の中の空間は、場面ごとの構図により性質の違いがみられ、また場面が展開していくことで歌詞ごとに異なった空間の広がりを獲得していることがわかった。